

1. 活動テーマ

<テーマ>

アリを観察してみよう！	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	りす組 (1歳児高月齢)	人数	6名

<テーマ設定理由>

当園の近隣には自然豊かな公園が多く、季節ごとに植物や虫に触れたり、地域全体が保育園として活動しています。その環境の中で様々な経験をつみ重ねることができるよう保育をしております。  
また、日常的に自然に触れることを楽しんでおり、戸外遊びやお散歩に出かけた際、「アリさん！」と言い、アリを追いかけている子どもたちの姿がありました。目の前を動く小さなアリの存在は、子どもたちの興味を強くひきつけていたため、アリが食べる物や巣についても更に興味関心が深まるよう「アリの観察」をテーマに設定いたします。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年4月～2026年3月  
【1回目実施期間】2025年4月～5月  
・公園に出かけた際、アリやアリの巣を観察する。  
・園に持ち帰りアリを観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・虫かご ・アリ ・エサ (砂糖)  
安全な観察場所の確保と観察用の道具や材料を準備して、子どもたちが興味を持ち、学びを深められるような環境設定を心がけた。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・今回は、「アリの観察」ということで、まずはアリをよく観察できるように虫かごでの観察を行なった。  
・朝の会の際や時間があるときにみんなでアリの様子を観察したり、アリに餌をあげたりして親しみを持って観察する。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

〈探索開始〉  
①園周辺のお散歩に行き、ある広場でアリの巣を発見。初めは「何の穴だろう？」と保育者と子どもで見ていると、その穴からアリが出てきたことに気づいた。それがアリの巣であることが分かった。  
子ども「あ！アリさん！」  
担任「アリさんのおうちだったね」

〈アリの観察へ〉  
②栄養士さんからアリの好物のお砂糖をもらって公園へ！アリの巣を見つけると近くにアリがいないか探し始めた。  
子ども「あ！せんせいいたよ！」  
「ありさーん！」  
担任「アリさんくるかな？」「お砂糖どうぞ」  
・お砂糖を置いてアリを捕まえる。子どもたちは見守り、アリを捕まえるのを心待ちにしていた。

③園に持ち帰り、次の日から毎日、朝の会などでみんなでアリの観察をした。  
子ども「アリさん、いた！」  
「アリさん、おはよう！」  
担任「アリさんもおはようって言ってるね」



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

・子どもたちの発見や気づきに着目し、子どもたちの興味があるものを見つけ、身近で楽しめるように環境設定したことで、子どもたちの興味が湧き、自ら触れてみたり挑戦したりする姿がたくさん見られるようになった。  
・また、アリが身近なものになったことから、他の虫も積極的に探して観察したり、より虫に触れることを楽しんだりする姿も増え、「視野を広げる」きっかけになったと思う。

### 1. 活動テーマ

#### <テーマ>

アリの観察をしてみよう！ ～アリのエサ実験～	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	りす組 (1歳児高月齢)	人数	6名

#### <テーマ設定理由>

##### 【今回の問いの設定理由】

- ・食育を通して命と食への関心を育む。 ・食材や味への興味を広げ、自分たちの食生活と重ねて考え、子どもたちの反応や気づき、知ることにつなげる。

### 2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年4月～2026年3月

【1回目実施期間】 2025年6月

- ・様々な実験用のエサを用意し、アリの好物は何か観察する。
- ・実験は、1回目と2回目とエサを変えて観察する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・実験用のエサ（砂糖、醤油、昆虫ゼリー、砂糖水、バナナ、塩、酢、ビスケット）
- ・実験台

アリの健康・命も考え、正確な観察ができる環境を整える。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動内容>

- ・食育活動から、アリの食べ物実験へとつなげ、じっくり観察する。
- ・子どもたちと一緒に「アリはなにを食べるのか？」という問いかけから活動スタート。
- ・実験台に6種類のエサを用意し、アリがどのエサに集まるのかを時間をかけて記録した。  
(実験は2日に分けて行なった)

### <活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

#### ◎アリのエサ実験（4匹のアリで実験）

〈1回目〉6種類のエサを用意し、みんなでアリがどのエサに集まったり、近づいてみたりしているのかを観察した。子どもたちは実験用のエサにも興味を示し、保育者に問いかける子もいた。

子ども「アリさん、たべる？」

「これなあに？（醤油を指さし）」

担任「それは、醤油だよ。食べるかな？」

エサ：砂糖、醤油、昆虫ゼリー、塩、バナナ、砂糖水

結果は、砂糖1匹、醤油1匹、昆虫ゼリー1匹、砂糖水2匹

〈2回目〉エサの種類を2つ入れ変えて実験を行った。

担任「どれ食べるかな～？」

子ども「おみず！（砂糖水）」

「ん～・・・（見つめる）」

エサ：砂糖、醤油、昆虫ゼリー、酢、ビスケット、砂糖水

結果は、砂糖1匹、酢2匹、ビスケット3匹

「ただ見る」だけではなく、予想を立てて観察したり、アリの反応を楽しんだり、より深い関心を持つ様子が見られた。

### 5. 振り返り

#### <振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・観察後、アリの載っている絵本を手にとって見返したり、毎日の観察では、アリだけでなくエサにも注目して見たりと変化もあった。
- ・また、「食べる」という行動に共感し、自分たちの「食」へのつながりや意欲にもつながっているように感じた。
- ・今後は、他の生き物の食べ物や子どもたち自身の食への興味にも広げ、食育や命のつながりを更に感じる活動へと発展させていきたい。



### 1. 活動テーマ

#### <テーマ>

アリを観察してみよう！ ～アリの巣作り～	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	りす組 (1歳児高月齢)	人数	6名

#### <テーマ設定理由>

##### 【問いの設定理由】

公園や園内でのアリの観察から、アリの巣の構造はどのようになっているか、また、巣を作ることができるのか研究し、興味・関心を深める。

### 2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年4月～2026年3月

【1回目実施期間】2025年6月～7月

- ・虫かごから観察用キットにアリを移し替え、観察を行う。(約1ヶ月)
- ・アリの巣の構造や動きを楽しみ観察する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・観察用キット ・アリ ・天然砂 ・黒画用紙 ・エサ(砂糖) ・水
- ・霧吹き(湿度管理)

※アリは脱走しやすいため、空気穴は小さくして蓋を閉める。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動内容>

前回は「アリの観察」ということで虫かごを使用して観察していたが、今回は「アリの巣の観察」ということで観察用キットに移し替え、土ではなく天然砂を購入し、アリの動きがより分かりやすく観察できるようにした。

### <活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

〈アリの巣作りの様子〉

～観察用キットに移し替え二週間後～

・透明の容器に天然砂を入れてアリの巣作りを観察した。ケースの周りを黒画用紙で覆い、観察する時だけ外して観察した。



①アリは安心して巣を掘り始めていた。

子ども「・・・?(見つめている)」「なあに?(指差し)」

担任「おうち作るのかな?」

②数匹のアリは、水の入ったペットボトルキャップの下に穴を掘り始め、巣を作ろうとしているようだった。子どもたちも毎日の観察での変化に不思議そうにしながらも、アリが一生懸命に穴を掘っているのを顔を近づけて夢中で見ていた。



③数ヶ月(5週間)の観察の観察経過を楽しんでいた子どもたち。変化する巣に気づき、興奮して観察したり、子ども同士でも簡単な言葉で伝えたりして共有していた。

子ども「アリさん、いる!」「みちだ(道)～!」

担任「すごいね! どうやって作ったのかな?」

「トンネルみたいだね!」



### 5. 振り返り

#### <振り返りによって得た保育士の気づき>

・アリの巣作りの様子をじっくり観察できたことで「見て気づく」経験が提供できた。また、透明な容器を使ったことで普段見えない部分が見えるようになり、子どもたちの観察意欲や不思議に思う気持ちが自然と引き出せた。

・巣作りの環境として「暗い場所の方が巣を掘りやすい」傾向にあることも知り、透明な容器の周りを黒画用紙で覆い、様子を見たところアリも安心して穴も掘り始めていた。

・完全な巣作りは見られなかったが、子どもたちの興味・関心は深められたと感じた。

## 1. 活動テーマ

### <テーマ>

アリの観察をしてみよう！ ～アリの水実験～	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	りす組 (1歳児高月齢)	人数	6名

### <テーマ設定理由>

#### 【問いの設定理由】

- ・水遊びが始まり、水遊びが慣れてきた頃に水の入った容器にある児がアリを浮かばせてじっと見ている姿があった。
- ・水遊びを通して、土や砂だけでなく、水面ではどのような姿が見られるのか実験を行い、子どもたちの反応や気づき、知ることに繋げる。

## 2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年4月～2026年3月

【4回目実施期間】2025年7月

- ・容器に数量の水を入れて、アリは浮くのか実験をする。
- ・アリの水面での動きをじっくり観察する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・アリ（3匹）・容器（3つ）・水（少量）

※アリの命を大切にしつつ、安全で観察しやすい環境を整える。

## 4. 探究活動の実践

### <活動内容>

- ・水遊びに慣れてきた頃から、アリへの水実験へと自然につなげ観察する。
- ・始める前「アリはどうなるかな？」と問いかけ、子どもたちと一緒に予想を立ててからスタート。
- ・水の入った容器にアリを浮かべ、水に対するアリの反応や動きを観察した。

## <活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

### <アリの水実験>

・3つの容器に水を少量入れて、それぞれの容器に1匹ずつアリを浮かべて観察した。アリが水にどう反応するか見ていると、アリの行動に驚いたり、不思議そうにしながらも動きを見て喜んだりする姿が見られた。

子ども「アリさん、ういてる～！」「ピチャピチャ～」  
担任「泳いでみたいだね！」

・中には、「お水飲んでる？」とつぶやく子もいて、アリの行動を自分なりに考えようとする姿も見られた。

子ども「アリ！まわってる～！！」「クルクルしてる～！」  
担任「本当だ！上手に回って動いているね。」

・アリの様々な反応や動きに子どもたちも夢中で観察していて、更に興味・関心する姿が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・自分たちが遊んでいた水の中にアリも浮かぶという体験が新鮮だったようで、水面をのぞきこむ姿が多く見られた。
- ・子どもたちは「ただ見る」だけでなく、自分の目で確かめ、感じ、考える力を自然と育てていた。
- ・今後は、他の虫や生き物への関心にもつなげていけるよう、図鑑・絵本・実物観察など取り入れ、もっと視野を広げていけるようにしていきたい。

## 1. 活動テーマ

### <テーマ>

アリを観察してみよう！ ～アリの模型づくり～	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	りす組 (1歳児高月齢)	人数	6名

### <テーマ設定理由>

- 【問いの設定理由】
- ・アリの観察から絵本や図鑑を見て、アリという存在を認識し、色や形などにも興味を示していた。
  - ・そうした興味の広がりから、アリの模型を作り、体のつくりを知って、アリの巣づくりの「遊び」に繋げていこうと考えた。

## 2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年4月～2026年3月

【5回目実施期間】2025年8月～9月

- ・アリの特徴を知り、アリの模型を保育者と一緒に作る。
- ・保育者と一緒にアリの巣を作って遊んでみる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- (アリの模型) ・新聞紙 ・折り紙(黒) ・モール(黒) ・水のり ・ビニールテープ(黒)  
 ・丸シール(目)
- (アリの巣製作) ・紙皿 ・水のり ・折り紙(茶色) ・紙 ・クレヨン
- ・アリの体の特徴(頭・胸・腹)を分かりやすく写真を見せたり、言葉で伝えたりした。
  - ・普段からアリの巣が載っている絵本や図鑑をクラスに置いてイメージが持てるようにした。

## 4. 探究活動の実践

### <活動内容>

- ・普段から遊んでいる新聞紙を使って製作した。新聞紙の感触や変化する形を楽しみながら保育者と一緒につくり始めた。
- ・新聞紙の素材を使って保育者が体の部分を作り、体の色や目の貼付けは子どもたちを援助しながら作り上げる。
- ・アリの巣は、下書きを保育者が事前に紙に描き、その上から子どもたちにクレヨンで色を塗ってもらう。
- ・巣部分は、子どもたちに茶色の折り紙を水で水で紙皿に貼って製作する。

## <活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

### ～アリの模型づくり～

- ・以前遊んだ新聞紙を保育者がアリの体の部分に変えて作り、子どもたちに体の色と目の部分の貼付けを保育者に援助されながら時間をかけて作った。
  - ・アリの観察から体の特徴もよく分かっていて、楽しみながら製作していた。
- 子ども「なあに、これ？」「アリさん、ペタペタするね！」  
 担任「水のりだよ。これでアリさんの体作ってみよう！」
- ・水のりの感触を楽しむ子もいれば、苦手とする子もいたが、保育者と楽しい雰囲気の中でアリの体の部分が出来上がってくると、完成を喜ぶ子どもたちの姿が見られた。
- 子ども「見て～！僕のアリさんだよ！」「かわいい～」  
 担任「上手にできたね！」「かわいいアリさんできたね！」

### ～アリの巣製作～

- ・紙皿に茶色の折り紙を水で水でつけて製作した。
  - ・貼る素材をじっと見つめ、指で感触を確かめていた。
- 「これアリさんのおうち？」と保育者に確認しながら作っている姿も見られた。
- 子ども「ペタペタ～」「ちよんちよんちよん」  
 自分の作った巣を何度も見返したり、友達と見せ合いながら笑顔を見せていた。
- 巣の中は、大きな紙に保育者が下書きをして子どもたちがその上から、主におうど色のクレヨンで巣の中の部分も塗って作り上げた。

### ～アリの模型とアリの巣完成～

- ・自分たちで作ったものを嬉しそうに見ながら、「ここ、おうちだね」「ご飯あるね！」と子ども同士での言葉のやりとりも見られた。
- ・完成後は、一人一人作ったアリを手にとって、みんなで作り上げた巣でじっくり遊ぶ姿が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・実際に見ていたアリへの関心を製作活動に楽しく繋げることができた。1歳児にとっては、模型づくりは少し難しさもあったが、保育者の援助のもとで達成感や発見の喜びを味わうことができたと思う。
- ・今後も子どもたちの興味をキャッチしながら、身近な自然や生き物に触れる活動や簡単な製作活動を取り入れていきたい。

1. 活動テーマ

<テーマ>

絵本から想像する造形	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	きりん組 (2歳児)	人数	12名

<テーマ設定理由>

当園は、小人数保育を生かし、今の子どもたちの興味を見つけ、自らが考えて制作活動に取り組んでいます。また毎年、「演奏」「歌」「絵画」を織り交ぜたパフォーマンスに参加して、その後ごっこ遊びを通して子どもたちが再現するなど、子どもたちの感性を育む活動を強みとしています。

日々の保育の中で絵本の読み聞かせをしていたことから、子どもたちが絵本に親しみをもっています。その中で製作にも意欲的な様子が見られたため、特に関心を持った『ワニワニシリーズ』の絵本を基に造形あそびに繋げることをテーマとして設定します。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年5月～2026年3月  
 【1回目のスケジュール】 2025年5月～8月

- ・各クラスに分かれ背景画 ・様々な色を使って、絵の具で自由画
- ・ワニワニの色付け (わにの形に切り取られたプチプチに緑の絵の具を塗りつぶし)
- ・パーツ貼り付け (わにの目、歯を糊付け)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・白い模造紙
- ・絵の具 (赤、ピンク、白、黄色、青、緑) ※変化をより楽しむことができるよう、あえて用意した絵の具を少なくし、製作の過程で様々な色を楽しめるよう配慮する
- ・筆
- ・ブルーシート
- ・画用紙で目、歯のパーツ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

ワニワニの絵本を導入として読み聞かせてから背景画を開始した。  
 様々な種類の絵の具を筆を使って一枚の模造紙に自由に塗り広げた。  
 色の混ざり具合が楽しむことができるよう、あえて原色白の絵の具を主に用意し行った。

ワニワニの体をプチプチで表現し、緑の絵の具を筆で塗り広げた。十分に塗り広げることができれば、仕上げに目と歯のパーツを糊付けし完成。

<活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

背景画での自由画は、筆を使って様々な色を塗りそれぞれで楽しんでいた。  
 始めは手や体が汚れることに抵抗を感じている姿も見られたが、徐々に慣れてくると手に絵の具を塗って模造紙に塗り広げたり、指先でスタンプのようにして楽しむ姿が見られた。  
 その中でお友だちとの絵の具が混ざり合い色が変化すると「黄緑あったけ?」、「オレンジになってる!」と用意された絵の具以外の色を発見し子ども同士で伝え合う。  
 オレンジや紫に変化したり、その後も何色も色を混ぜていくと黒になったことに気がつき「あれ? いっぱい塗ってるのにずっと黒いなあ」と黒くなった絵の具の上に何色も重ねても色の変化があまりないことに気がついていた。

ワニワニの色付けでは、絵本を見本として並べ、プチプチの感触を楽しみながら筆で緑の絵の具を塗り潰した。絵本の見た目と感触を比べることで、よりイメージを膨らませ、プチプチに触れ「ワニワニみたいにポコポコしてる!」と話したり、徐々に絵の具が塗られてくると「ワニワニみたいになってきた!」と完成に近づいていく過程も楽しんでいた。

仕上げに目と歯を好きな場所ののりで貼り付けたが、手本通りに貼り付ける姿や、「目の場所はここじゃない?」「歯をこんなところにもつけたらどうかな?」と体の部分に歯を貼り付け「模様にしよう!」等と、オリジナルのイメージを膨らませながら作品を完成させていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

各クラスに分かれて取り組み、どちらの製作も子どもの性格が現れる作品となっていた。1組は手や体に絵の具が付くことに抵抗がある姿がみられ、ほとんどの児が筆を使って自由画を行っていた。2組は、ダイナミックに楽しむ姿がみられ、手に絵の具を塗りつけボディペインティングのようにして楽しむ姿がみられた。

普段から人気のある絵本の『ワニワニ』をテーマにしたことで意欲的に取り組んでおり、特に絵本の見た目と感触を比べながら行ったことで、よりイメージを膨らませることができ、楽しんでいる様子であった。また、共同製作にしたことで、子ども同士会話をしながら進めることができ、発想を共有し合いながら作品を完成させることができていた。

## 1. 活動テーマ

### <テーマ>

絵本から想像する造形 『おばけのてんぷら』	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	きりん組 (2歳児)	人数	12名

### <テーマ設定理由>

#### 【今回の問いの設定理由】

季節の絵本を取り入れていく中で、日々子どもの興味のある『おばけのてんぷら』を製作に組み込んだ。おばけや、様々な天ぷらに興味があり中でも天ぷらの作り方や、形をみて何の天ぷらか当てたりなどする姿をみて今回の製作に至った。

## 2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年5月～2026年3月

【2回目実施期間】2025年9月～10月

絵本の読み聞かせ、うさぎ、おばけのステンシル

うさぎの似顔絵、おばけのパーツ貼り、さつまいも、レンコンのスタンプ

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙 薄黄色、白絵の具、スポンジ、クレヨン、おばけ顔パーツ、のり、さつまいも、レンコン

## 4. 探究活動の実践

### <活動内容>

事前に『うさぎのてんぷら』の絵本の読み聞かせを行う。

うさぎとおばけを切り抜いた、画用紙を別の用紙に重ねステンシルを行う。

ステンシルを行ったうさぎの顔にクレヨン画で顔の目、口を描き上げる。

おばけに目、口、手の各パーツをのり付けする。

さつまいも、レンコンのスタンプ

## <活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

おばけの天ぷらを日々の保育での読み聞かせを行なってからの製作であったため、うさぎとおばけの型を見ると「おばけのてんぷらだ！」とすぐに製作の内容を理解していた。

ステンシルでは、中心にのみスポンジスタンプを押したり同じ場所に押し姿が見られた。切り上げようとした際に、一度ステンシルの型を外して見せると上手く形ができていないことに気づき、再度全体的に絵の具を押すことができていた。

後日、ステンシルをした作品にそれぞれ顔のパーツをクレヨン画のり付けを行った。

見本として絵本の表紙を見ながら取り組み、うさぎとおばけの表情を忠実に仕上げようとして「ニコニコのうさぎにしよう！」「怖いおばけさんにしたよ！」と自分の中のイメージを思い思いに描こうとする姿様々であった。

仕上げに作中に登場するさつまいも、レンコンの天ぷらをスタンプし完成させた。

「うさぎさんれんこんの天ぷら好きなのかな?」「おばけさんまた食べに来ちゃうね」と完成した作品を見ながら絵本の世界観を楽しむ姿が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育士の気づき>

日常の保育の中で読み聞かせをしていた絵本の中で、特に子どもの興味のあるものを製作に取り入れたことにより、意欲的に行い、製作の内容もすぐに理解していた。

見本として保育士が仕上げた作品を置いておき、様子を見ていたが、見本の通りに作り上げようとしていたり、子どもイメージを広げながら作品を作る姿（うさぎの表情やおばけのポーズなど）も見られた。

完成後には、子ども同士の作品を見比べ、うさぎやおばけの違いについて気づいたことを伝えあったり、野菜への関心も少しずつ深まり「これ天ぷらのお野菜だ」と食事中に話したりする姿も見られた。

1. 活動テーマ

<テーマ>

絵本から想像する造形 『秋の自然物を使ったお店屋さんごっこ』	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	きりん組 (2歳児)	人数	12名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの設定理由】

- ・ 戸外活動の中で子供たちが意欲的にどんぐりを集めているので、それを使った活動をしたい。
- ・ どんぐり拾いに行った時に女兒2人が台の上にどんぐりなどを並べて自発的にお店屋さんごっこをしていた。
- ・ おままごと遊びが好きなので子供にイメージしやすいお弁当屋さんとパン屋さんに設定して、売り買いを楽しむ。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】 2025年5月～2026年3月  
【3回目のスケジュール】 2025年11月

散歩にてどんぐり集め、バッグを持参する、感触や色に特色のある素材選び  
集めたどんぐりやその他の自然素材を活用したお店屋さんごっこ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ どんぐり、落ち葉、松ぼっくり、枝、さざんかの種、赤い実
- ・ 折り紙、毛糸、ストロー・お弁当箱、パンを入れる袋、モール、カップ
- ・ 両面テープ、セロテープ、ボンド、養生テープ、クレヨン、ハサミ
- ・ 看板用ラシャ紙、段ボール・粘土・持ち帰り用紙袋

4. 探究活動の実践

<活動内容>

【事前準備】  
自然の素材あつめ（どんぐり拾い）  
【アート活動内容】  
①粘土のパンとお弁当作り ②バッグに装飾（落ち葉、折り紙、キラキラ紙、クレヨン） ③看板作り（クレヨン、枝、落ち葉） ④お店屋さんごっこ（お店と客で2回行う）

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

秋の自然物を集めるところから始まった活動の集大成の日。粘土のパンもお弁当詰めもものすごい集中力で自分の好きな形に仕上げている。ひとつ作り上げてもう一度違う形を作る子もいた。自分でイメージを持ち「飛行機のパン」「象のパン」「電車のパン」と名前をつけてそのように作り上げていった。お弁当は入れる物に個性が出ており、どんぐりだけをたくさん入れる子や、沢山の種類の材料を入れる子とに別れた。自分で作ったものを大事に持ちテーブルに並べる為に手放すのを嫌がる子もいた。



看板は1、2組交互に製作をした。クレヨンの自由画をした後、葉や枝を両面テープで子供が貼り付けていく。どこにつけようか、と考えながら貼っていた。段ボールに描いたえり先生の店名も可愛らしく、お店やさんらしい台が出来上がった。



個人のバッグには自分の好きなものを貼り付けていった。その場で子供に聞きながら保育者が両面テープやボンドで貼るように促した。ここでは自然物よりもキラキラしたテープや折り紙などを好んでつける子が多かった。

品物やバッグ、お店が整ってようやくお店屋さんごっこが始まる。事前に保育者が用意していた銀色に染色したどんぐりをお金に見立て、それぞれのお財布に入れてあげると、とても喜ぶ子供たち。急ぎ足で好きなお店に行き、「ください」とやり取りしていた。お店の子も自然に「いらっしゃいませ」の声が出て、活気がある声が行き交い、楽しい雰囲気の中でお店屋さんごっこが進められた。いくつも買う子や、ひとつだけの子、とここでも個性が出ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・ 盛りだくさんな活動ではあったが、誰か1人飽きてしまう子はおらず、素晴らしい集中力で取り組むことができた。
- ・ 自分の買った品物を袋から何度も出して眺めて喜んでいる姿が印象的だった。
- ・ 公園で収穫するところから継続しての活動で、子供たちの興味に合った無理のないとても有意義な活動になった。

1. 活動テーマ

<テーマ>

絵本から想像する造形 『造形あそび』	園名	ヒューマンアカデミー中河原保育園		
	クラス	きりん組 (2歳児)	人数	12名

<テーマ設定理由>

【今回の問いの設定理由】  
子どもが興味をもった絵本をもとにアート活動を取り入れる。自然の素材や感触を楽しめる素材を準備して造形遊びをすることで、子どもたちの自由な発想を広げ探究を深める。

2. 活動スケジュール

【年間スケジュール】2025年5月～2026年3月  
【3回目実施期間】2025年10月～2026年3月

日常の保育をアート講師と共にすることで探究活動を深める

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【用意した素材】絵の具、色紙、紙皿でできたお面、タンポ、事前にペイントした色紙、プチプチ、リボン、両面テープ、糊、お弁当作りの素材、他

【環境設定】  
イベントや季節の制作との連続性をもった活動の設定、秋の自然物を活動に生かすための事前準備、テラスを活用した環境設定

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ①アート講師と共に保育をすることで、日々の保育の中での探究を深める  
「色遊びから何が生まれる？」ハロウィンに虹色オバケに変身しよう  
「秋の自然を使ってどんなお店屋さんができるかな？」自然の素材を活用したお弁当屋さん  
「絵本妖怪大レース」自分で考えた妖怪の顔をカラーでつくってみよう



2026年2月アートジカ

- ②アートムジカの公演  
「演奏」「歌」「絵画」を織り交ぜた体験型のパフォーマンスに参加  
これまでのアートの探究活動の集大成として連続性のある活動にする

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

お面のベースを見せた途端みんなワッと盛り上がり「バイキンマンみたい!」と、まず身近なキャラクターを想像した様子。  
タンポで塗りはじめると、キャラクターに見立てたり、いろいろな色を使って独自の色使いをする子もいれば、自分の好きな色だけ使ったりする。  
色紙を床に6色広げて並べるとカラフルな絨毯のようで、みんな最初は破くことに戸惑った様子だったが、保育者やアーティストが率先してやってみると気持ちが乗りちぎり始める。破るのが難しい子には声掛けをして切れ目を入れたり、一緒にビリビリして楽しんだ。  
その後、ひたすら細かく千切ったり、散らばった色紙の上に投げ舞わせたり、床に転がって紙に埋もれようとしていたり、靴のようにして紙を踏みながら歩き周ったり、破った紙をものに見立ててごっこ遊びが始まったりと、それぞれの遊び方を発見していた。  
→この後、ハロウィンイベントに繋げる

妖怪レースづくりでは、始める前から「ダダンダンみたいなのにするんだ!」「カッパがいいな」など楽しみにしていた様子。  
自分で好きな色紙を選び、いろいろな形に切ったペイント色紙を出して、リボン、テープ、毛糸、プチプチ、と順に出す。糊を使いながら気に入った素材をのせたり貼ったりする。更に違う素材を出していくとまた盛り上がり、長い時間集中して取り組んでいた。  
その後、レース用の車を装飾する。描いてもいいよとペンを渡すと、ゴシゴシと夢中になって塗り「いろいろな色を混ぜたら黒になった!」と話していた。  
完成させた妖怪CARを肩に下げてテラスに出て、絵本を再現するように妖怪大レースあそびを行った。走り方を工夫したり、降りて走り出す姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・これまでダイナミックに紙を破ったりすることがなかったため(前に新聞紙ではやったことがあった)新しい試みであり、「これは何かに見えるかな?」との声掛けに対して、散らばった紙から色々な遊びを発見するきっかけになったと感じた。
- ・好きな絵本を題材として繰り返し楽しんでいただけから、活動への期待が高くて意欲的だった。制作を始めると周りの友だちの様子は見ながらも、好きな色や素材を選んで夢中に取り組んでおり、自分で考えて取り組み自由な発想をめぐらせる創作活動の機会となった。
- ・体験型パフォーマンスでは、芸術的な歌や演奏に触れるだけでなく、これまでのアート活動から繋がるような内容であったため興味深く見る事ができていた。